

【奄美地区地域自立支援協議会】【奄美地区障害者虐待防止センター】【障害者差別解消支援地域協議会】

障がい福祉に関する相談窓口です。

～自立支援協議会 活動報告～



令和5年度第1回定例会

日時：7月13日（木）
場所：龍郷町りゅうがく館
参加：46名（内オンライン4名）
事業所紹介：生活介護 オリーブの丘



「第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画への要望について」

障害福祉計画は、国の基本指針に即して市町村・県が地域の实情に応じて柔軟な計画をたてることになっています。定例会では、当事者団体を含んだ地域の福祉事業所、医療、関係機関の実務担当者から見立てた課題について意見交換をしました。

- ・不登校児の保護者がスムーズに相談できる窓口があるとよい
 - ・ヘルパー不足で必要としている人にサービス提供ができない
 - ・簡単な家事支援はボランティアを活用できないか
 - ・中途障害、若い方の行き場、プログラムがあればよい
- その他たくさんの気づき、課題が出されました



詳しくは協議会ホームページで議事録掲載
要望については市町村へ提出しました。

令和5年度第2回定例会

日時：10月19日（木）
場所：奄美市笠利総合支所
参加：44名（完全対面）
事業所紹介：こころ



「居宅介護サービスが少ない地域の現状と課題について」

居宅介護はヘルパーが利用者宅を訪問し、日常生活を支援するサービスですが、近年は全国的にヘルパーの高齢化や減少が進み、サービスを休廃止する事例も増えています。奄美地区においても同様の傾向があり参加者で活発な意見交換を行いました。人材確保や育成を前提としつつ、限りある資源をどのようにマネジメントし利用者の生活向上につなげるかを確認しました。



第2回地域移行支援部会

参加者：23名（参加機関：医師会、施設、グループホーム、生活介護、行政）10月4日開催

「利用者の高齢化で通院の支援が増えている」現状の情報共有、地域で仕組み作りができればいいなと思うことやアイデアを出し合いました。また、予約により待ち時間がなく診察できることで利用者への負担が軽減されている等、好事例も報告がありました。施設やグループホームでは高齢化による介護的ケアが増え、生活介護では保護者の高齢化により在宅生活への不安があがっています。



第1回障害者差別解消地域支援協議会

参加者：32名（商業施設、公共交通機関、行政関係者、障害当事者団体等）

2024年4月施行の「改正障害者差別解消法」で、民間の事業者による障がいのある人への「合理的配慮の提供」が義務化されることに伴うことについて、参加者で具体的な事例や対応について意見交換し情報を共有しました。

大島支庁のくらし安心相談員から、車椅子利用者からの要望による改善事例等への対応照会、龍郷町のスーパーからは障がい者用の駐車場のブルーカー対応の報告がありました。他の参加者からは車椅子利用者のトイレ使用時の対応など想定される事例について意見があり配慮のあり方について確認しました（権利擁護部会として開催）



北部地区子ども支援ネット



参加者：54名 6月16日開催

龍郷町りゅうがく館で北部地区（奄美市笠利・龍郷町）の困り感のある子どもの支援に関わる機関が集まり「子ども支援 net」を開催しました。前半に、鹿児島大学大学院臨床心理学研究科の高橋准教授による「発達支援における保護者との連携」と題したミニ研修を実施。後半はグループワークを行いました。多職種で連携を図っていく上で「顔の見える」関係性を作ることの重要性や北部地区にもっと療育施設が増えたらよいなど、参加された皆さんから意見が出されました。

「そだちサポート報告 2020～2022」を作成しました。

難症の弱みを強みに変えていこう！！



Amami-Kagoshima
そだちサポートプロジェクト
第1期 実践報告 2020～2022
～インシデント・プロセス法を用いた事例検討会の取り組み～

今回、そだちサポート勉強会の報告書を作成しました。
この報告書は、2020 年度から鹿児島大学心理系教員グループと一緒に取り組んでいる「そだちサポートプロジェクト」の一環として、年 6 回地域の支援者の皆さんと行ったオンラインの事例検討会をまとめたものです。
この事例検討会では「インシデント・プロセス法」という手法を用いて、決められたルールのもと「負担少なく」「安心して」「いろんな視点を共有できる」ということをコンセプトに取り組んでいます。
コロナ禍で整備されたオンラインの環境を活用し、地域の支援者の皆さんが、終業後のお疲れの時間帯にも関わらず、毎回、積極的に参加してお互いに学び合ったものを報告書として形にしました。



※当局議会 HP からダウンロードすることができます。「広報誌・書式」→「書式のダウンロード」→「そだちサポートプロジェクト第 1 期報告書」※「amami-kagoshima そだちサポートプロジェクト」の取り組みは、こちらの QR から確認することができます。



ポイント

リカバリーストーリーとは



病気や障がいがあっても、人として希望に満ちた生き方をしていくことを「リカバリー」と言います。「リカバリーストーリー」とは、簡単に言えば、自分の人生を取り戻していく過程を聞く人に向かって話すことです。自分の経験を話すことは、周りにも大きな影響を与えますし、自分の人生にも意味を見出すことにつながると言われていて、今、奄美地区地域自立支援協議会のピア部会交流会でも参加者と一緒に取り組んでいます。興味のある方は事務局までご連絡を。

すべての経験がその人の強みになる！

障がい福祉サービス豆知識

経験を活かす



NEW

地域の障がいサービス事業所紹介

児童発達支援事業所 nYokki 奄美市名瀬大熊町 1424
TEL : 0997-69-4361

児童発達支援事業所 あんだんて 奄美市名瀬西仲勝 197-1
TEL : 0997-69-4420



グループホームあさひが丘 奄美市名瀬浦上町 55-8
TEL : 0997-57-1323

相談支援事業所 NIJI 奄美市名瀬長浜町 25-17-1F
TEL : 090-1085-4863



各事業所の詳細情報や奄美地区地域自立支援協議会の活動は、ホームページからも見ることができます。(http://www.amami-jiritsu.org/)「ぴあリンク奄美」で検索するか、こちらのQRコードを読み取ってご覧ください！！



ぴあリンク奄美

「お問い合わせ先」

奄美地区障がい者等基幹相談支援センター（ぴあリンク奄美）
鹿児島県奄美市名瀬幸町 15 番 3 号
TEL0997-69-4061 Fax0997-69-4062
✉amamithikukikan@ark.ocn.ne.jp

